

FP 核データ評価 WG 平成 18 年度第 2 回会合議事録 (案)

日時： 平成 19 年 2 月 5 日 (月) 13:30-17:20

場所： 原子力機構システム計算科学センター 第 1 大会議室

出席者：川合将義 (KEK)、堀 順一 (京大炉)、村田徹 (元アイテル)、安藤良平 (東芝)、
中川庸雄、千葉敏、市原晃、古高和禎、岩本信之、国枝賢、柴田恵一 (原子力機構)

配付資料

FP06-8	FP 関連測定について	堀
FP06-9	Zr の Thermal Cross Section	村田
FP06-10	^{93}Nb 共鳴パラメータの検討	村田
FP06-11	Xe-126, 131, 135, 136 の検討	松延
FP06-12	分離共鳴パラメータの検討 (Mo、Ru、La、Ce、Pr)	中川
FP06-13	FP 分離共鳴パラメータの再検討	柴田
FP06-14	JENDL-4 のための FP 核データ評価 (5)Nd 同位体データ	岩本
FP06-15	核データ評価プログラム POD の開発	市原
FP06-16	FP 核データに関する国際協力活動 (SG10、17、21、23)	川合

議事

1. 議事録確認

前回議事録を承認した。

2. FP 関連の測定について (配付資料 FP06-8)

堀委員が京大炉電子ライナックでの I-127,129、Pd-105, 108、Zr-91 中性子捕獲実験の現状を報告した。I-127 では 10.4 eV にピークが観測されている。

3. 分離共鳴パラメータの検討

(1) 村田委員担当分 (配付資料 FP06-9, 10)

Nb-93 に関しては、一部のパラメータを Drindak et al. (2006) のデータで置き換えた。Zr 同位体に関しては、熱中性子捕獲断面積が Mughabghab 2006 と一致するようにパラメータを調節する。なお、パラメータ調節は柴田委員が実施する。

(2) 松延委員担当分 (配付資料 FP06-11)

松延委員が欠席のため、柴田委員が資料を代読した。Xe-126, 131, 135, 136 とともに修正不要である。

(3) 中川委員担当分 (配付資料 FP06-12)

Mo、Ru、La、Ce、Pr の分離共鳴パラメータに関する詳細な説明があった。

(4) 柴田委員担当分 (配付資料 FP06-13)

柴田委員が Ga、Kr、Sr、Pd、Cd、Sn、Te、Nd、Eu、Gd、Tb の分離共鳴パラメータの検討結果を報告した。Gd-157 に関しては、Leinweber et al. (2006) の thermal 領域の共鳴パラメータを考慮すると熱中性子捕獲断面積は JENDL-3.3 や Mughabghab 2006 より 10% 小さくなる。現時点では、thermal 領域は JENDL-3.3 のパラメータのままとなっている。ユーザーの立場として 10% 減少が妥当かどうか、後日、安藤委員がコメントすることになった。

4. スムーズパートの評価 (配付資料 FP06-14)

岩本委員が Nd 同位体のスムーズパート断面積評価について報告した。計算コードとしては CCONE 用い、計算結果は既存の実験データを概ね良好に再現している。

5. 核データ評価プログラム POD の開発 (配付資料 FP06-15)

市原委員が POD コードの機能について説明した。マニュアルは JAEA Data/Code レポートとして、今年度内に出版の予定である。

6. 国際協力 (配付資料 FP06-16)

川合委員が 3 月の日本原子力学会核データ・炉物理合同企画セッションで発表する FP に関する WPEC 活動について発表要旨を説明した。

アクションリスト

1. 川合委員：paramagnetic 散乱に関する問い合わせを行う。
2. 柴田委員：Zr 同位体共鳴パラメータの調節を行う。
3. 安藤委員：Gd-157 捕獲断面積に関するコメントがあれば、柴田委員に伝える。

次回会合予定

未定 (19 年度)